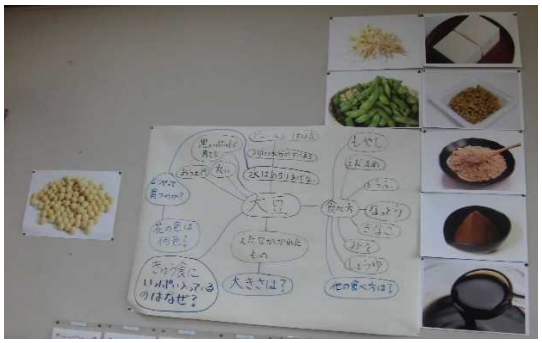
授業研究の様子（ＥＳＤの視点に立った能力や態度を育成するための手立てに沿って）

＜　導入段階「前時までの学習の確認と、めあてをつかむ」＞

① 今まで調べてきた内容から、ゲストティーチャーに聞きたいことを明確にし、発表会に向けて、大豆の情報を集める。　**＜多様な観点と見通し＞**

誰に向けて発表会を開くのかを明確にすることで、調べる内容を吟味させる。

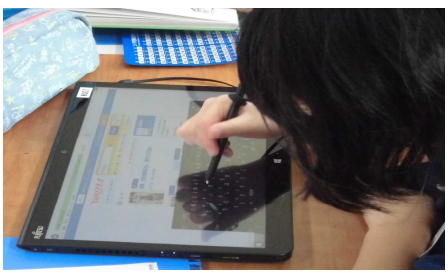


○　児童が調べている内容をどこでどのように発表していくかというビジョンがはっきりしていたため、意欲的に取り組むことができていた。

○　ゲストティーチャーを呼び、質問したいことを明確にすることによって、児童の中での取捨選択ができた。

＜　展開段階「テーマごとのグループに分かれ、調べ学習を行う。」＞

タブレット端末・本などの資料、ゲストティーチャーへの質問から、テーマに沿った情報を収集させる。　**＜主体的・計画的＞＜多様な観点と見通し＞**

○　何度か調べ学習を行っていたことで、児童１人１人の役割が明確になっていて、自分がどの物を使って調べたらいいかはっきりしていた。

●　タブレット端末を使用することで、調べる視野が広くなりすぎたため、自分たちがテーマとしていた物よりも広い情報を手に入れることで、情報の集約が難しくなった。